

三原市・湯河原町親善都市子ども交流推進事業

8月11日(土)～12日(日)

「親善都市子ども交流に参加して」

吉浜小学校 6年 伊藤大地郎

5年生の時、親善都市子ども交流に参加し、三原市の友だちと交流を深めました。『来年、三原に必ず来いよ。』と言ってくれた友だちがいたので、必ず三原に行くと約束をしました。ぼくは、6年生になり、友だちは、中学1年生です。会えるかわかりませんが、楽しみに行きました。

8月11日、湯河原を出発して、5時間以上の道のり、着くまで少し緊張していましたが、駅に着くと三原交流の友だち、先生方が出向えてくれるのが見えてほっとしました。その中に去年約束をした友だちはいませんでしたが、新しい友だちができたらいいなと思いました。

歓迎レセプションが始まり、ジュニアリーダーズクラブの人たちが来て、都道府県名を使ったゲームをたくさん考えてくれ、ぼくたちも夢中になり、楽しい時間を過ごすことができました。ジュニアリーダーズクラブメンバーの中に、去年約束をかわした友だちがいました。びっくりのおどろきでした。話をすることはできませんでしたが、会えて嬉しく思いました。

湯河原やっさを駅前のロータリーで三原の皆さんにひろうし、いよいよ本番三原やっさ祭りです。うまくおどれるか心配でしたが、嬉しいことが1つありました。湯河原小学校の『吉田さん』がベストスマイル賞を受賞し、ぼくたちが見てもすばらしい笑顔でした。また、三原の子どもたちも笑顔いっぱい、楽しくおどっているのがとても印象的でした。

この2日間、三原交流に参加し、友だちどうしのかかわり合うことの大切さを感じ、また、深く考えることができました。この貴重な体験を大切にしていきたいと思います。



「三原の思い出」

湯河原小学校 6年 吉田大翔

ぼくたちは、8月11・12日の2日間三原の子どもたちと交流するために三原市へ行きました。初めて行った三原の町は湯河原に比べ、大きい建物がたくさんあり、『都会だなあ』と感じました。それに街は『お祭りムード』一色でこれから始まるお祭りが楽しみでワクワクしました。そして、このお祭りが心に残った一等賞です。おどりは簡単です。でも、きん張して上手にできるか心配でした。だけど、不思議と体が自然と動き、笑顔にもなれました。ちょっと自分でもびっくりです。『三原やっさ』では、みんなが楽しそうに声を出し笑っていて、ぼくも楽しい気分でおどることができたんだと思います。それに、みんなの方言の雰囲気もぼくはおもしろくて大好きです。『心もおどる』とはまさにこのことです。そうしたら、何と『ベストスマイル賞』というごほうびまでもらうことができました。やった！！ぼくは一番前だったので見えなかったけど、きっと湯河原のみんなが笑顔いっぱいだったのだと思います。みんなでもらった賞だよ。ありがとう。

今回ぼくは、湯河原の別の小学校の子や、三原の子とも友だちになれました。その子もぼくも去年から2回目の参加なので、話が盛り上がりました。学校のこと、海のこと、方言のこと、お祭りのこと、色々なことを話しました。また、いつか会えるかな。会いたいな。

2日目は、三原の子と一緒に米山寺見学へ連れて行ってもらいました。そこには土肥次郎実平と小早川家の墓がありました。立派でした。ちょうど戦国時代の勉強をしたところなので余計に感動しました。

他にも今回の交流では、楽しいことが山ほどありました。ぼくが大人になった時、『あの時は楽しかったなあ。』と思い出せるようにしっかり覚えておこうと思います。ありがとうございました。

